

S I P 第 3 期の事前評価フォローアップを踏まえた追加予算配分について

令和 5 年 9 月 7 日
ガバニングボード

1. 経緯

S I P 第 3 期の事前評価に基づき、本年 1 月に 14 の課題が決定されるとともに、公募、パブリックコメント等を経て、3 月に各課題の PD、「社会実装に向けた戦略及び研究開発計画」（戦略及び計画）及び予算配分が決定され、4 月から S I P 第 3 期がスタートし、各課題で研究推進体制や研究開発テーマの公募等が進められているところ。

今年度の予算配分では、各課題から要望があった予算が、計画段階での見込みであり、執行段階で変更がありうることから、全体の 1 割弱に当たる予算（約 19.8 億円）を留保し、今後の執行状況を踏まえ追加配分を行うこととしたところ。

このため、7 月～8 月に実施する各課題の事前評価のフォローアップを目的としたプログラム統括チームによるヒアリングと評価委員会に併せ、各課題から予算の執行状況を踏まえた追加予算配分の要望を受け付けて必要性について検討を行った。

2. 追加予算配分の方針

(1) 追加予算配分の必須条件

追加予算配分は、以下の点を全て満たすものに限ることとする。

- ① 各課題の戦略及び計画の趣旨に沿っており、また、個別評価意見への対応を行う上で必要不可欠なもの
- ② 課題を取り巻く研究開発の進捗や経済社会情勢の変化の中で直ちに取り組むことが求められるもの（事前評価の時点と現時点でどのような経済社会情勢の変化があるか明確にすること。例えば、G7 などの国際ルールや国内の法整備、ウクライナ問題・米中関係などの海外情勢、物価高など国内情勢などの動きを踏まえ、新たに対応が必要になった研究開発テーマ等）
- ③ 予算執行状況からして当初に配分された予算の中では対応できないもの

(2) 追加予算配分の優先条件

追加予算配分の検討にあたっては、以下のような内容を優先（加点）することとする。SIP 全体としての予算の効果的な執行にあたって、個々の課題のみならず、複数の課題にまたがって貢献するものが望ましく、複数課題での共同提案は歓迎する。

- ① データ連携・課題間連携に向けた取組であるもの
- ② 5つの視点から、技術開発のみならず、関係省庁や産業界と連携して制度整備や社会的受容性の醸成などの取組を進めるなど、社会実装に向けたベストプラクティスを創出するもの

3. 追加予算配分要望の検討結果

プログラム統括チームヒアリング及び評価委員会時の各課題からの説明、質疑応答等を元に、追加予算配布についての評価及び検討を実施。

(1) 評価基準

「予算要求の妥当性」として、S～D評価の考え方は、以下の方針とした。

S：要求額のとおり認められる（100%）

追加予算配分の必須条件の①、②がいずれもA評価以上で加点要素がA以上

A：概ね要求額のとおり認められる（概ね90%程度）

追加予算配分の必須条件の①、②がいずれもA評価以上で加点要素がB

B：要求額について精査が必要である（概ね70%程度）

追加予算配分の必須条件の①、②のいずれかがB評価

C：要求額の一部のみが認められる（概ね50%程度）

追加予算配分の必須条件の①、②のいずれかがB評価であってかつ、条件付与が有り

D：認められない（0%）

追加予算配分の必須条件の①、②のいずれか又は双方がC評価

【機密性 2 情報】

(2) 各課題の評価と予算配分

課題名	予算要望額の妥当性評価
1. 豊かな食が提供される持続可能なフードチェーンの構築	C
2. 統合型ヘルスケアシステムの構築	B
3. 包摂的コミュニティプラットフォームの構築	C
4. ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築	要望なし
5. 海洋安全保障プラットフォームの構築	S
6. スマートエネルギーマネジメントシステムの構築	A
7. サーキュラーエコノミーシステムの構築	S
8. スマート防災ネットワークの構築	B
9. スマートインフラマネジメントシステムの構築	B
10. スマートモビリティプラットフォームの構築	B
11. 人協調型ロボティクスの拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	S
12. バーチャルエコノミー拡大に向けた基盤技術・ルールの整備	A
13. 先進的量子技術基盤の社会課題への応用促進	B
14. マテリアル事業化イノベーション・育成エコシステムの構築	要望なし